

**山野草 シュンラン**

北海道から九州に広く分布し、日本を代表する野生ランです。シンビジウムの仲間で、人里近くの雑木林などに自生しています。春に花を咲かせることが名前の由来です。

とうめい news

2022.3.1
Vol. 247

〒249-0034 厚木市船子237
TEL. 046-229-3377
発行者:河野 昌史
編集責任者:和田 博貴
印刷: (有)タイム21

ホームページアドレス <http://www.tomei.or.jp/clinic/>**心臓血管外科医が行う総合診療科**

総合診療科: 志村 信一郎

TOPICS

こんにちは。私は毎週火曜日の午前と午後に総合診療科を担当している志村です。それ以外の曜日は東海大学医学部附属病院心臓血管外科で診療を行っている心臓血管外科専門医および修練指導医です。とうめい厚木クリニックでは2011年から外来診療をお手伝いさせていただいておりましたが、2021年4月から総合診療科として終日外来診療を担当させて頂くこととなりました。私のような外科医が総合診療科を標榜することに当初は抵抗があり、科の名称変更をお願いしましたが事務の方はなかなか許してくれませんでした(笑)。しかし、しばらく総合診療科を続けてみると、これもまた良かったのかなと思うようになりました。

私は大学で大動脈疾患の外科診療を担当しており、大血管外科と呼称されます。もちろん心臓の手術も行いますが私の場合は大動脈手術に付随したものが多くなります。疾患としては大動脈瘤が多く、また、患者さんの約3割は急性大動脈解離や大動脈瘤破裂といった待ったなしの緊急症例です。治療は開胸開腹による人工血管置換術やステントグラフト内挿術という血管内治療で、よく「お薬では治りませんか？」と聞かれますが、残念ながら現代の医学では大動脈瘤治療は手術だけとなります。大動脈瘤を有する大動脈は内側にコレステロールのかたまりがこびり付いた「粥状(じゅくじょう)硬化」や大動脈の壁が石のように硬くなる「石灰化」などと呼ばれる変性を伴っていることが多く、いわば動脈硬化の「なれの果て」とも言えます。また、大動脈瘤患者さんの約

3割では、心臓を栄養する冠動脈に狭窄や閉塞を伴うことがあり、カテーテル治療や冠動脈バイパスが必要となることもあります。私は「動脈硬化、太い血管より太く、細い血管より細く」と交通標語のように唱えております。

大動脈瘤は自覚症状に乏しく破裂して初めて胸痛や腹痛といった症状が出現します。しかしその時はすでに手遅れであり、多くは検診や他の疾患での診療中に発見されます。ただし胸部大動脈瘤は声帯につながる左反回神経が引き延ばされて声がかすれたり、腹部大動脈瘤は自分で腹部の拍動を触知して発見されたりすることがあるので心当たりのある方は私の外来を受診してください。大動脈瘤の診療ではCT検査や超音波検査といった画像診断検査を多用します。ですので、私は画像診断検査を行う敷居が低くその有効性をより高く認識しているかもしれません。

さて、総合診療科ではなんとなく頭が重い、肩が凝る、めまいがする、疲労感が取れない、背中や腰に鈍痛があるなど、様々な症状の患者さんが初診で来られます。また、他のクリニックや病院で今まで診断がつかなかった方が受診されることもあります。こういう症状を「不定愁訴」といって、重大な疾患の前駆症状であることもあり、私の外来ではこういった患者さんには放射線検査、超音波検査、生理機能検査、血液生化学検査等、徹底的に検査することになっています。CT検査では放射線被曝を極力回避しつつ検査によって得られるベネフィットを考慮して施行します。とうめい厚木クリニックには大学病院に勝るとも劣らな